



平成23年度1学期終業式 校長講話

平成23年（2011年）7月28日
長野県軽井沢高等学校長 内堀繁利

みなさん、こんにちは。

今日はまず、PTAの講演会でお聞きした話を2つしたいと思います。

一つは、東信地区のPTAで聞いた話です。

アメリカという国は、戦争に関していろいろなデータを持っていますが、南北戦争—これはアメリカの国内の戦争ですね、その南北戦争と、第1次世界大戦、第2次世界大戦、この3つの戦いで、兵士の発砲率—鉄砲・ライフルを持って実際にどれくらい弾を撃った人がいるかという率を調べたそうです。どれくらいだと思いますか。10～15%だそうです。相手が人間ですから、そんな簡単には撃てない。兵士は躊躇する。撃ったら相手が死んでしまうわけですから、当然の感覚ですよね。でも、それじゃあ、戦争にならない、戦争に勝つために発砲率を上げようと、アメリカ軍は第2次世界大戦が終わったあとに3つのことを行ったそうです。1つは射撃訓練の標的を◎ではなくて動く人形にする。2つ目は、命中したら人形から血に似たケチャップが出るようにする。3つ目は、兵士を20代にする。家庭を持っていない、子どもがいけない可能性が高いですから。こういった訓練をして5年くらい経ったときに朝鮮戦争がありました。このときの発砲率は、どうなったでしょう。55%に上がったそうです。それから更に10数年経ってベトナム戦争がありました。戦争の状況の違いはあるかもしれませんが、このときの発砲率はなんと95%、ほぼ全員が弾を撃ったことになります。



もう一つは、北信越のPTAで金沢に行き、テレビの『サザエさん』のマスオさんの声をやっている増岡弘さんという声優さんの講演で聞いた話です。マスオさんの声をやっておられる増岡さん、いくつくらいだと思いますか。若い声ですが、なんと70代だそうで、小学校は第2次世界大戦の前、物のない貧しい時代に過ごしたそうです。当時は給食がなく、家から弁当を持ってくる。ところが食べるものがない家の子は弁当を持って来られない。それに気づいた担任の先生が「そうか、今日は弁当忘れたんだな。俺のを食べろ」と言って自分の弁当をあげた。そうしたらもう一人何も食べていない子がいて、「あいつも忘れたみたいだから、悪いけど半分コしてくれや」と言った。それを見ていた同級生で、米のある当時比較的裕福な家の子が、翌日おにぎりを3つ持ってきて、「一つ食べたらおなか一杯になっちゃった。一つずつ食べてくれねえ」と言った。おにぎりをもらって食べていたうちの一人が大きくなって、小さな会社の社長になった。小さな会社だから景気のいいときも悪いときもある。それでも、社員の給料は、自分の給料を減らしてでも、毎回ちゃんと払っている。その社長は「大事な社員だからね。それぞれ家庭もあるし」と当たり前のように言っている。そんな話でした。



この2つの話をしたのは、良くも悪くも、人間は、周囲の環境の影響を受けやすいということと言いたかったからです。

でも、環境の影響を受けやすいことは事実としても、みんながみんな同じように影響を受けるわけではありません。アメリカ軍の中にも、戦争であっても、人を殺すこと、人間に向けて発砲することに疑問を持ち続けた人はいたでしょうし、増岡さんのクラスの子どもがみんな、その社長さんと同じようにみんなで分け合うことの大切さを学び実践しているかどうかは分かりません。

女子サッカーのワールドカップ、なでしこジャパンの活躍を見た人はたくさんいると思います。彼女たちの環境は決して恵まれていません。多くの選手が、プロ契約をしていませんから、生活のために昼間働き、夜に練習をするというような日常を送っています。それでも世界一になった。このあと彼女たちの練習環境がよくなることを願っていますが、これなどは、環境の影響を受けなかった、というより、逆境を撥ね返したと言った方がいい例でしょう。きっと彼女たちはこうして自分たちで自分たちの環境を向上させていくのでしょう。強い人たちです。

人間は環境の影響を受けやすい。でも、周囲の環境の影響を受けていると言う、その同じ人が周囲に影響を及ぼしている。結局、まわりの環境というのは、自分以外の「誰か」が作り出しているものではなく、自分も含めた「自分たち」が作り出しているものだということです。そして、その環境をよくするのも悪くするのも自分たち次第だということです

皆さんの人間関係には様々なものがあります。友だちとの1対1の関係。仲良しグループの関係。家族関係。先輩、後輩。クラス、学年、学校……。人間関係は、1+1が2ではありません。いい関係を築ければ、4にも5にもなりますが、いい関係でなければ、0だったり、マイナスになったりもします。それはすべて「他人のせい」ではなく、自分を含めた「自分たちのせい」です。どうせならいい人間関係、いい集団をつくりたいものです。

入学式と1学期の始業式で、それぞれ、新しい生活、新しい学期のスタートだから、気持ちを切り替えて頑張ろう、やろうと思ったことを続けてみよう、と言いました。今日、1学期が終わりますが、みなさん4月に心に決めたことは実現できたり、あるいは実現できつつあるでしょうか。

1学期を振り返ってみると、強歩大会では参加者全員完歩を成し遂げました。素晴らしいことです。今日は公欠でいませんが、アイスホッケー部は県予選をいい試合で勝ち県代表として全国選抜大会に出場します。テニス部と卓球部は東信大会を勝ち抜き県大会に出場しました。こういった結果が出ていなくても毎日内容のある練習を一生懸命に続けているクラブもたくさんあります。3年生の齋藤君は、ゴルフ国体の県大会で優勝し、県代表として北信越国体に出場します。1年生のキンパン・アイリス・ミーさんは、英語レシテーションコンテストの県大会で他校の2・3年生をおさえて優勝しました。3年生の堀籠君は、I O C国際オリンピック委員会主催で1月にオーストリアで行われる第1回ユースオリンピックのカーリング競技、日本代表4人のうちの1人に選ばれました。

地元の皆さんからは、軽高生はよく挨拶をしてくれるとお褒めの言葉を最近よくいただきます。「服装や行動がよくなった」「明るく素直な生徒が多い」などと言われることも増えました。一方で、残念ながら、乗車マナーや公共の場での行動などについて、たまにですが、苦情をいただくこともあります。

そのどちらもが軽高生です。

軽井沢高校の生徒の集団は、人をおちょくったり、足を引っ張ったりする集団ではなく、励まし合い、助け合い、お互いがお互いを高め合う集団であってほしいと願っています。

夏休みは目的もなくただだと過ごすであっという間に終わってしまいます。まず、夏休み中にこれだけは必ずやるということを決めましょう。そして、決めたことは必ずやり遂げましょう。そこに必ず人間的な成長があります。

8月の始業式には、成長したみんなに会えるのを楽しみにしています。

元気ががんばりましょう。

終わります。